

# 平成29年 **10**月の大阪森林便り



## 今月の木の話

### 針葉樹は軟らかく、広葉樹は堅い

- ・針葉樹と広葉樹とでは細胞の構成が違うために、一般的に針葉樹は軟らかく、広葉樹は堅いというように、木の性質（材質）が異なっています。
- ・針葉樹は広葉樹に比べて単純な構造です。針葉樹は比較的幹が真っすぐで長く大きな材を得やすいので、建築用材として多く使われます。
- ・広葉樹は針葉樹よりも植物的に進化しています。広葉樹は色や重さ、軟らかさは樹種によって違いが大きく、変化に富んでいます。材質は針葉樹よりも重くて硬く、家具や内装などの工芸的用途に使われています。

（日本林業調査会「木材に強くなる本」より抜粋）



## 建設資材、値上がり 鋼材や木材

### 五輪・首都圏開発で需要増

- ・2020年の東京五輪開催や首都圏再開発工事の本格化を控え、鋼材や木材といった建設資材が値上がりしています。
- ・内装用の合板は、最大手セイホクグループが3%値上げします。9月契約分から標準品の出荷価格を7カ月ぶりに引き上げます。
- ・型枠用輸入合板が、7月から標準品で3%値上がりしました。

（2017年9月3日 日本経済新聞記事から抜粋引用）



## 南洋材丸太が一段高 国内卸値 輸入減り1%上昇

- ・南洋材のマレーシア産丸太の国内卸価格が一段と上昇。7月の輸入量は、主産地サラワク州の環境規制で前年同月比4割強減りました。

（2017年9月3日 日本経済新聞記事から抜粋引用）

### 北米産丸太が一段高 日本向け9月積み 原木供給細る

・北米産丸太の9月積みの日本向け輸出価格が一段と上昇。8月積みに比べ2%高く、2か月連続で値上がりしました。2年8か月ぶりの高値水準に達しました。

(2017年9月7日 日本経済新聞記事から抜粋引用)

### 輸入合板卸値 一段と上昇 内装用、前週比4%高

・輸入合板の国内卸価格が一段と上がっています。南洋材普通合板(厚さ2.3ミリ)が前週に比べて4%上がりました。厚さ4mmも1%高くなっています。

・マレーシア産合板の対日価格は、6月積みから9月積みまで4か月連続で上昇。この間の値上げ幅は2割強に達しています。9月以降はもう一段の値上がりが予想されています。

(2017年9月8日 日本経済新聞記事から抜粋引用)

### マレーシア合板 対日4%値上げ 10月積み

・コンクリート型枠に使うマレーシア産の南洋材合板の10月積み日本向け輸出価格が、9月積みに比べ4%の値上げで決まりました。値上げは6月積み以来、5か月連続。

(2017年9月9日 日本経済新聞記事から抜粋引用)

### 米材丸太が1.5%上昇 国内価格 カナダの山火事影響

・米材丸太の国内価格が、9か月ぶりに1.5%上昇。山火事の影響で供給が減っています。

・カナダ西部の7月の山火事は収まりましたが、北米は山火事が起こりやすい季節に入っています。北米現地の原木丸太価格は、年初に比べ1割強上昇しています。

(2017年9月12日 日本経済新聞記事から抜粋引用)



## 国産合板、7カ月ぶり上昇 流通価格、前月比5% 値上げ浸透

### 在庫は低水準、需要増続く

- ・国産合板の流通価格が7カ月ぶりに上昇。国産針葉樹構造用合板12ミリは、前月に比べ5%上がりました。
  - ・国産針葉樹合板の7月末の在庫量は前年同月比6.2%少なくなっています。
  - ・出荷量は4.8%増加。住宅着工統計にない公民館や幼稚園など非住宅分野で木造建築が増え、出荷増につながっているとの声が多くなっています。
  - ・南洋材合板の型枠用は、7月から3%上がりました。
  - ・2020年の東京五輪・パラリンピック関連施設や首都圏再開発の大型工事の本格化を控え、鋼材やコンクリートなど建材価格は上昇基調を強めています。
  - ・型枠用合板だけでなく、内装用合板の需要増も見込まれます。
- ※合板：2016年に国内で製造された合板は約306万m<sup>3</sup>。輸入合板は約277万m<sup>3</sup>。国産の占める比率は52%で、1995年以来21年ぶりに国産合板の生産量が輸入合板を抜きました。

(2017年9月14日 日本経済新聞記事から抜粋引用)

## 米材製材品2%高 流通価格 原木の伐採量減少

- ・米材製材品の流通価格が上がりました。8月に比べて2%高くなっています。
- ・産地の山火事で、原料となる北米産丸太の日本向け輸出価格が上昇。2か月連続で上がり、2年8か月ぶりの高値水準。

(2017年9月21日 日本経済新聞記事から抜粋引用)

## 木材自給率 30年ぶり高水準 昨年

- ・林野庁は、2016年の木材自給率が前年比1.6ポイント増の34.8%だったと発表。1986年と並ぶ30年ぶりの高水準。
- ・バイオマス発電所の増加に加え、住宅用合板で国産材を使う動きが活発になったため。
- ・1955年の木材自給率は96%でしたが、輸入自由化で1970年には50%を切り、2002年に18.8%まで落ち込みました。

(2017年9月27日 日本経済新聞記事から抜粋引用)